

文部科学省官民協働海外留学支援制度 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム
～ 地域人材コース ～

世界とともに発展する SAGAN グローバル人材育成事業

成果報告書

令和4年3月



文部科学省



トビタテ!
留学 JAPAN
その経験が、未来の自信。



JASSO



佐賀県



佐賀県商工会連合会



九州龍谷短期大学



佐賀女子短期大学



佐賀大学



学校法人 永原学園

西九州大学
西九州大学短期大学部

SAGAN グローバル人材育成協議会

事業期間：平成 28 年度～令和 3 年度

目 次

■ ごあいさつ	1
I. 事業支援企業・団体	
1. 寄附協力企業・団体一覧	2
2. インターンシップ受入れ登録企業・団体一覧	4
II. 事業の目的・目標	5
III. 事業の概要	
1. 協議会体制	5
2. 事業期間	5
3. プログラム	
(1) プログラムの流れ	5
(2) 具体的な内容	6
4. 支援内容	6
5. 対象	6
6. 派遣留学生	6
《派遣留学生一覧表》	7
7. 実施内容	
(1) 平成 28 年度 (2016 年度) 概要	8
(2) 平成 29 年度 (2017 年度) 概要	10
(3) 平成 30 年度 (2018 年度) 概要	13
(4) 令和元年度 (2019 年度) 概要	15
(5) 令和 2 年度 (2020 年度) 概要	17
(6) 令和 3 年度 (2021 年度) 概要	18
(7) 収支概要	19
IV. 成果と課題	
○留学生の募集について	20
○留学先や留学の期間について	21
○留学費用について	22
○事前・事後インターンシップについて	23
○留学経験が就職活動及び現在の職業に活かされているか	24
○佐賀県内企業への就職について	25
○個人のグローバル人材としての成長について	26
付記	28

V. 派遣留学生の成果報告	29
○第5期生	30
○第7期生	38
○第9期生	50
○第11期生	52
■ 編集後記	64
SAGAN グローバル人材育成協議会構成	64

ご 挨拶

SAGAN グローバル人材育成協議会 代表
国立大学法人佐賀大学長

兒 玉 浩 明

「世界とともに発展する SAGAN グローバル人材育成事業」は、文部科学省が官民協働で海外留学を支援する制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」の地域人材コースとして創設され、平成28年度から「さが地方創生人材育成・活用推進協議会（事務局：佐賀大学）」の下で、さらに令和2年度から「SAGAN グローバル人材育成協議会」の下で、佐賀県地域の企業からの寄附に加え、佐賀県及び文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトからの支援により、海外留学と県内企業でのインターンシップを組み合わせた海外留学支援事業として実施してまいりました。

本事業では地域の課題解決を主題としたプログラムを実施し、地域及び産業界が求めるグローバル人材の育成と県内定住、及び佐賀県地域の企業等の海外展開や地域での多文化共生社会の推進による佐賀県地域の活性化を目指し、佐賀県地域の企業等に就職する等、将来の佐賀県地域の発展に貢献することを希望する学生を支援してまいりました。海外へ留学した学生には必要な経費の一部を奨学金等として支給するとともに、自らの明確な目的に基づいた実践的な学びによる育成を焦点に、佐賀県のものづくり、農業、アート、映像制作等におけるプログラム化された留学を学生自らが計画し、留学前後に研修やインターンシップを実施し、留学中は座学や知識の蓄積型ではなく実社会との接点から多様な学びを得ることができる多様な学修活動（インターンシップ、フィールドワーク、ボランティア、プロジェクトベースドラニング等）を行ってまいりました。海外に留学した学生たちは、自ら飛び込んだ地で困難なことも数多く経験し、それまでの人生で味わったことのない苦勞がたくさんあったはずですが、しかしこの成果報告書には、彼らが逞しく困難を乗り越えていく姿が報告され、創造性のある課題解決力をもって佐賀県の発展に情熱と愛情を注ぐことのできる人材に育成できたことを実感できます。

今般の新型コロナウイルスの感染拡大は、国際社会に大きな影響をもたらし、未だその先行きを見通すことができない状況にある一方で、その克服に向けた国際協調と競争環境を生み出し、現在、我が国もその渦中にあります。その中で、本学を含む SAGAN グローバル人材育成協議会の各機関では、ポスト・コロナにおける新たな地域社会に向けた挑戦を続けており、持続的な地域の発展のため、各々が持てる力を発揮し、目指すべき地域社会の実現に積極的に寄与していくことが強く求められております。

これまで、本事業の趣旨にご賛同いただき、惜しみなくご支援くださった地域の寄附協力企業・団体、インターンシップ受入れを引き受けていただいた企業・団体をはじめ、ご指導・ご支援いただいた文部科学省、日本学生支援機構、佐賀県、佐賀県商工会議所連合会に対し、ここに改めて深く感謝を申し上げますとともに、本事業で派遣した留学生たちの今後更なるご活躍を心より祈念いたします。

トビタテ！留学JAPAN ～地域人材コース～
世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業

I. 事業支援企業・団体

1. 寄附協力企業・団体一覧

	企業・団体名	所在地
1	(株) AQUAPASS	西松浦郡有田町北ノ川内丙 325 番地 3
2	(株) 鮎川電工	小城市三日月町長神田 2444
3	(有) イデント	佐賀市久保泉町下和泉 2550 番地
4	(株) 嬉野観光ホテル 大正屋	嬉野市嬉野町下宿乙 2276-1
5	(株) 大橋	神崎市千代田町崎村 401
6	(株) オプティム	佐賀市本庄町 1 番地 オプティム・ヘッドクォータービル
7	(株) 北島	佐賀市白山 2-2-5
8	(株) 木村情報技術	佐賀市卸本町 6-1
9	(株) 九州コーユー	小城市三日月町金田 813
10	(株) 九電工佐賀支店	佐賀市神野東 2 丁目 6-26
11	(株) ケーブルワン	武雄市武雄町大字昭和 360
12	(株) 佐賀 I D C	佐賀市駅前中央 1 丁目 6 番 25 号 佐賀東京海上日動ビル
13	佐賀県企業メセナ協議会	佐賀市天神 3-2-23
14	(株) 佐賀県ヤクルト販売	佐賀市嘉瀬町大字扇町 2509
15	(株) 佐賀広告センター	佐賀市天神 3-2-23
16	(株) サガシキ	佐賀市高木瀬西 6-3-2
17	(株) 佐賀シティビジョン	佐賀市天神 3-2-24
18	(株) 佐賀新聞社	佐賀市天神 3-2-23
19	(株) サガテレビ	佐賀市城内 1-6-10
20	(株) 佐賀電算センター	佐賀市兵庫町藤木 1427-7
21	(株) Citynow Asia	佐賀市本庄町 1 番地 佐賀大学理工学部 6 号館
22	(株) 島内エンジニア	佐賀市水ヶ江 2-4-17
23	(社) ジャパン・コスメティックセンター	唐津市南城内 1-1 大手ロセンタービル
24	(株) ソクト	佐賀市西与賀町大字厘外 1338 番地 2
25	(株) ソロン	佐賀市神野東 2 丁目 2 番 1 号

26	(株) 大神	佐賀市東与賀町大字飯盛 2635
27	(株) タカギ	福岡県北九州市小倉南区石田南 2-4-1
28	(株) 中央タクシー	佐賀市兵庫北 1 丁目 1-12
29	(有) 堤正則建築設計事務所	佐賀市伊勢町 1-19
30	(株) 東亜工機	鹿島市大字山浦丁 1430 番地 30
31	(株) 戸上電機製作所	佐賀市大財北町 1-1
32	(株) 徳永陶磁器	西松浦郡有田町丸尾丙 2512
33	(株) トレミー 九州唐津工場	唐津市浜玉町浜崎 1901 番地 460
34	(株) 中野建設	佐賀市水ヶ江 2 丁目 11 番 23 号
35	(株) 中村電機製作所	佐賀市高木瀬西 6 丁目 4 番 7 号
36	(株) 中山鉄工所	武雄市朝日町甘久 2246-1
37	(株) 西九州トヨタ自動車	佐賀市嘉瀬町大字扇町 2480 番地
38	(株) 西村鐵工所	小城市牛津町柿樋瀬 286-4
39	(株) ノマドサイエンス	佐賀市駅前中央 2 丁目 7 番 5 号
40	(株) バイオテックス	佐賀市久保田町大字徳万 1853 番地 3
41	(株) ブルーム	唐津市浜玉町浜崎 1901-457
42	(株) ホンダカーズ中央佐賀	佐賀市巨勢町大字牛島 204-7
43	(株) 松尾建設	佐賀市多布施 1 丁目 4 番 27 号
44	(株) ミズ	佐賀市水ヶ江 1 丁目 1 番 11 号
45	(株) ミゾタ	佐賀市伊勢町 15 番 1 号
46	(株) ミッド佐賀	佐賀市鍋島 2 丁目 5 番 26 号
47	(株) 宮島醤油	唐津市船宮町 2318
48	(株) 村岡総本舗	小城市小城町 861
49	安永法律事務所	佐賀市松原 1-4-28
50	(株) 山電	佐賀市西与賀町厘外 852-6
51	(株) 理研農産化工	佐賀市大財北町 2-1
52	(株) ロジコム	佐賀市鍋島町大字森田 2439-1
53	(株) ワイビーエム	唐津市原 1534 番地

(50 音順)

2. インターンシップ受入れ登録企業・団体一覧

年 度	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)
受入れ登録企業数	16	18	21	25

	企業・団体名	プログラム 番号	所 在 地
1	(株) アルビオン	2)	東京都中央区銀座 1-7-10
2	(株) 大橋	1)	神崎市千代田町崎村 401
3	(株) オプティム	2), 5)	佐賀市本庄町 1 番地 オプティム・ヘッドクォータービル
4	(株) キザクラ	1)	伊万里市二里町大里乙 3503
5	(株) 香蘭社	5)	西松浦郡有田町幸平一丁目 3 番 8 号
6	(NPO) さが環境推進センター	5)	佐賀市高木瀬町長瀬 1750
7	(株) 佐賀広告センター	5)	佐賀市天神 3-2-23
8	(株) サガテレビ	4)	佐賀市城内 1-6-10
9	(株) JTB 佐賀支店	5)	佐賀市中央本町 1-10 ニュー寺元ビル
10	(株) Citynow Asia	1), 5)	佐賀市本庄町 1 番地 佐賀大学理工学部 6 号館
11	シムアット デザインラボ	5)	佐賀市柳町 1-15
12	(社) ジャパン・コスメティックセンター	2)	唐津市南城内 1-1 大手ロセンタービル
13	(株) スチームシップ	3), 5)	西松浦郡有田町本町丙 972 番地 32
14	(NPO) 地球市民の会	5)	佐賀市高木町 3-10
15	(株) 東亜工機	1)	鹿島市大字山浦丁 1430 番地 30
16	(株) 戸上電機製作所	1)	佐賀市大財北町 1-1
17	(株) 徳永陶磁器	3), 5)	西松浦郡有田町丸尾丙 2512
18	(株) トレミー 九州唐津工場	2)	唐津市浜玉町浜崎 1901 番地 460
19	(株) 中山鉄工所	1)	武雄市朝日町甘久 2246-1
20	西九州大学附属 三光幼稚園	5)	佐賀市若宮 1 丁目 13-3
21	(株) Plant Farm Japan	2)	佐賀市諸富町大字大堂 1677-1
22	(株) ブルーム	2)	唐津市浜玉町浜崎 1901-457
23	(株) ミゾタ	1)	佐賀市伊勢町 15 番 1 号
24	(株) 宮島醤油	1)	唐津市船宮町 2318
25	(株) ワイビーエム	1)	唐津市原 1534 番地

※プログラム番号の内容については P6 に記載

(50 音順)

II. 事業の目的・目標

本事業は、地域及び産業界が求めるグローバル人材の育成と県内定住を目的として、佐賀県地域の企業からの寄附に加え、佐賀県及び文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクト「トビタテ！留学 JAPAN ～地域人材コース～」からの支援による、海外留学と県内企業でのインターンシップを組み合わせた海外留学支援事業である。佐賀県地域の産学官金労言が主体となり、海外での留学・インターンシップと地域企業等でのインターンシップを組み合わせた地域の課題解決を主題としたプログラム設計を行い、グローバル人材の育成とともに佐賀県地域の企業等の海外展開や地域での多文化共生社会の推進による地域の活性化を目指すものである。

佐賀県地域に特有の課題に対する意識と個々の分野における解決への意志を持つ学生が、グローバルな視点により、それらのローカルな課題に取り組むことの出来る国内外でのプログラムを通じて、これらの課題に実践的に向き合うグローバル人材として育成されることを目標としている。

III. 事業の概要

1. 協議会体制

平成 28 年度より地方創生推進事業（COC＋事業）における「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」との協働により本事業を実施してきた。この COC＋事業が令和元年度をもって終了となったため、令和 2 年度からは COC＋事業で中核的役割を務めた佐賀大学、西九州大学・短期大学部、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、佐賀県、佐賀県商工会議所連合会の産官学の機関により構成される「SAGAN グローバル人材育成協議会」を新たに設立した。

○名称：SAGAN グローバル人材育成協議会（代表者 国立大学法人佐賀大学長）

○構成機関：（産）佐賀県商工会議所連合会

（官）佐賀県

（学）九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、佐賀大学

西九州大学・西九州大学短期大学部

運営事務局（佐賀大学学術研究協力部国際課）

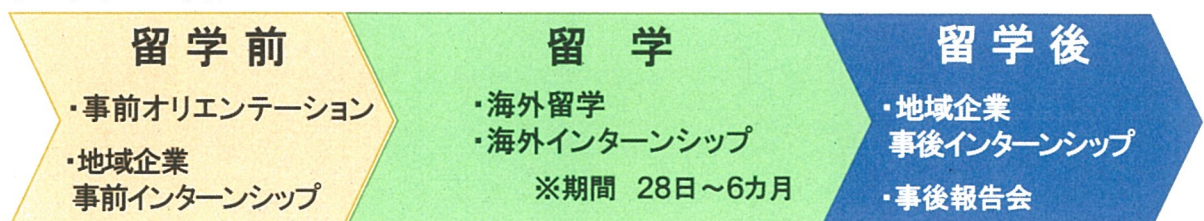
2. 事業期間

平成 28 年度（2016 年度）～令和 3 年度（2021 年度）

3. プログラム

グローバルな視点により地域の課題に取り組むことのできる国内外でのプログラムを通じて、将来、地域企業等に就職し、これらの課題に実践的に向き合うグローバル人材を育成するために、特に地域でのニーズや施策に鑑み、県内のものづくり、農業、アート、映像制作などの 5 つの分野におけるプログラムを設定した。

（1）プログラムの流れ



各プログラムともに、地域の経済団体や企業の協力の下、派遣留学生を対象に協議会による事前オリエンテーションを実施し、派遣留学生と地域特有の課題等に関する情報共有・意見交換を行い、必要に応じて、学生の希望する留学先又は海外インターンシップ先と県内企業での事前・事後のインターンシップのマッチングを行う。また、帰国後のインターンシップ終了後には公開での報告会を行い、派遣留学生それぞれの成果及びプログラム全体について検証・評価を行う。

(2) 具体的な内容

5つのプログラムの内容は以下のとおりである。

1) 県内のものづくり活性化のための国内外インターンシッププログラム

* 県内の製造業やエネルギー・インフラに関する産業の活性化のための課題解決型プログラム。主に工学系を専攻する学部生・大学院生を対象とする。

2) 唐津コスメティック構想の実現や、県内農産品輸出促進・県内農業活性化のための国内外インターンシッププログラム

* 佐賀県の推進する唐津コスメティック構想の実現や、県内農産品の輸出促進・県内の農林水産業活性化のための課題解決型プログラム。主に農学系及び経済・経営学系を専攻する学部生・大学院生を対象とする。

3) やきものを中心としたアートやアートプロジェクトによる地域振興のための国内外インターンシッププログラム

* 有田焼・伊万里焼などの県内の陶芸などのアートに関する実践的なプログラム及びアートプロジェクトによる地域振興のための課題解決型プログラム。主に芸術系・アートマネジメント・文化政策・地域政策等を専攻する学部生・大学院生を対象とする。

4) インバウンドが期待される、佐賀県が撮影誘致する映画・映像制作における国内外インターンシッププログラム

* 佐賀県フィルムコミッションと連携し、観光促進が期待される海外の映画・映像制作チームにおける国内外の実践的インターンシップ及び映像制作に関する留学プログラム。主に映像制作やアートマネジメントを専攻する学部生・大学院生を対象とする。

5) その他、佐賀県地域の活性化につながるグローバル課題解決型プログラム

* 上記以外で、佐賀県地域の活性化につながるグローバルな課題解決型プログラム。全ての学部生・大学院生を対象とする。

4. 支援内容

1. 海外留学費用（奨学金、渡航費、授業料の一部）の給付
2. 留学事前・事後に行う研修の提供
3. 継続的な学習や交流の場としての留学生ネットワークの提供

5. 対象

1. 佐賀県内の大学等に在籍する学生
2. 高等学校等在籍時に佐賀県内に在住経験のある学生で、応募時点では佐賀県外に立地する大学等に在籍する学生

上記 1. 或いは 2. の条件を満たし、佐賀県地域の企業等に就職する等、将来の佐賀県地域の発展に貢献することを希望する学生が対象。

6. 派遣留学生

○平成 28 年度から令和元年度まで、佐賀大学、佐賀女子短期大学、西九州大学、筑紫女学園大学の学生 計 18 人を派遣(令和 2 年度、3 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、派遣者はない)

《SAGAN グローバル人材育成事業（トビタテ！留学 JAPAN～地域人材コース～）派遣留学生一覧表》

採用年度	採用時学校・学年	留学タイトル	プログラム番号	留学期間 開始 終了		留学国	インターンシップ先	就職先
H28 (2016) 第5期	佐賀大 3年	「根拠なき自信」から「確固たる自信」を築くために	2)	H28 9/11	H29 1/10	インド	㈱オプティム	㈱千 (東京都)
	佐賀大 4年	唐津コスメティック構想の実現に向けた産学官および国際間連携の強化	2)	H28 10/18 H29 2/23	H28 11/13 H29 3/11	スリランカ	(社)ジャパン・コスメティックセンター	㈱マツモトファインケミカル (千葉本社)
	佐賀大 4年	『九州の観光産業・交流産業を牽引する、一流のプロフェッショナルになる！』～急成長市場である東南アジアのフィリピンで旅行業を学び、佐賀へのインバウンドの道を探る～	5)	H 28 9/9	H 28 11/9	フィリピン	㈱JTB佐賀支店	㈱JTB (福岡支店)
	佐賀大 3年	SAGAはこがんとこっさ！！～アニメを通じて佐賀県の魅力をしてもらい佐賀県の認知度向上、観光客増加につなげよう～	5)	H 28 9/8	H 29 2/27	カナダ	㈱JTB佐賀支店	㈱SMBC日興証券 (芦屋支店)
H29 (2017) 第7期	佐賀大 4年	オランダ(ロッテルダム、アムステルダム)で、水環境における上手な都市計画を学ぶ	1)	H 29 9/20	H 29 10/17	オランダ	㈱ワイビーエム ㈱ミソタ	㈱BlueMeme (東京都)
	佐賀大 2年	唐津と世界の架け橋になるため	2)	H 30 3/26	H 30 9/21	フランス	(社)ジャパン・コスメティックセンター ㈱ブルーム	㈱佐賀新聞サービス (佐賀県)
	佐賀大 4年	スタートアップ大国イスラエルからビジネスを世界展開する仕組みを学ぶ	5)	H 29 12/15	H 30 3/15	イスラエル	㈱オプティム	㈱パーソルキャリア (丸の内支店)
	佐賀大 4年	ミャンマーから繋がる佐賀～フェアトレード×ソーシャルビジネス～	5)	H 29 9/5	H 29 10/19	ミャンマー タイ	NPO法人 地球市民の会	(有)シサム工房 (東京都)
	佐賀女子 短大2年	世界につながるSAGAの多文化共生を目指して	5)	H 29 9/11	H 29 12/25	カナダ	NPO法人 地球市民の会	佐賀女子短期大学 (佐賀県)
	西九州大 3年	子どもたちのキラキラした笑顔は、どこからくるのだろうか	5)	H 30 3/15	H 30 9/15	オーストラリア	三光幼稚園	社会福祉法人 わかば みなみまごめ保育園 (東京都)
H30 (2018) 第9期	佐賀大 3年	焼き物デザインの考えを深める	3)	H 30 10/8	H 30 12/17	ドイツ	㈱徳永陶磁器	
	佐賀女子 短大2年	音楽は国境を超える！！民謡の力で佐賀の認知度向上へ	5)	H 30 9/10	H 30 11/30	イギリス	㈱佐賀広告センター	㈱木村情報技術 (佐賀県)
R 1 (2019) 第11期	佐賀大 4年	ICTで佐賀から教育を変える！！	5)	R 2 1/7	R 2 3/16	フィンランド	㈱オプティム	(千葉大学院在学)
	佐賀大 4年	環境教育を通じて、自然と子どもを結び、環境に優しい社会を！！	5)	R 1 11/1	R 2 3/16	フィンランド	佐賀市エコプラザ	鳥栖市立弥生が丘小学校 (佐賀県)
	佐賀大 3年	人とモノをつなぐ。伝えるチカラで、佐賀のモノ・コトをより魅力的に発信！	5)	R 2 2/1	R 2 3/16	オランダ	シムアットデザインラボ	㈱デイリーインフォメーション 関西 (広島県)
	佐賀大 修士2年	光学先端技術であるラマン光学活性分光についてアントワープ大学との共同研究の先駆け	1)	R 1 9/12	R 2 2/22	ベルギー	㈱戸上電機製作所	㈱大分キャン (大分県)
	佐賀大 修士1年	佐賀県の陶磁器産業の活性化を目指して	5)	R 1 9/16	R 2 1/17	イギリス フランス	㈱香蘭社	㈱アイトリガー佐賀オフィス (佐賀県)
	筑紫女学 園大4年	佐賀からグローバル化によって明るくワクワクする社会へ	5)	R 1 9/9	R 2 2/23	アメリカ	NPO法人 地球市民の会	佐賀市役所 (佐賀県)

※ P 29 以降に各派遣留学生の成果報告を掲載




7. 実施内容

(1) 平成 28 年度 (2016 年度) 概要

6名の採用枠に対し7名が応募し、4名が第5期生採用となった。初年度ということで事務局である佐賀大学からの応募だけにとどまった。採用された4名はインド、スリランカ、フィリピン、カナダへとそれぞれ飛び立ち、自身が計画した留学目的に沿って異国の地で活動した。

	実施内容
4月	学生募集説明会 (佐賀大学)
5月	25日(水)～30日(月) 平成28年度派遣留学生選考書面審査委 (一次審査)
6月	6日(月) 平成28年度派遣留学生選考面接審査 (二次審査) 日本学生支援機構からの決定同意通知 (第5期; 4名)
8月	<p>6日(土) 日本代表プログラムの事前研修 (1泊2日)</p> <p>8日(月) 平成28年度佐賀県地域派遣留学生壮行会 ・参加者 さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長 宮崎 耕治 文部科学省大臣官房総括審議官 関 靖直 佐賀県、佐賀県商工会議所連合会、 一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター、(株)中山鉄工所 等 第5期派遣留学生4名</p> <p>16日(火) 佐賀県地域事前オリエンテーション ・参加者 佐賀県地域交流部国際課 秦 志遠 佐賀大学特任講師 小嶋 紀博 佐賀大学国際交流推進センター准教授 新美 達也 第5期派遣留学生4名</p> <p>事前インターンシップ (～9/23)</p> <p>【株】オプティム】…ITサービスの研究開発および開発プロジェクトにてサービスを開発する業務</p> <p>【株】ジャパン・コスメティックセンター】…地産農林水産物の美容健康商品原料としての採用へ向けた企業訪問、素材生産者訪問、素材調達、化粧品原料サンプルの製造、化粧品業界を対象とする産学交流セミナーの運営</p> <p>【株】JTB 佐賀支店】…企業のオリエンテーション、嬉野イベント企画視察、祐徳稲荷視察、企画案作成</p>
9月	<p>海外留学の開始</p> <p>【インド】…IT とくに Web 戦略を行える人材になることを目的とし、常に変化と成長を続けるインドという環境で現地のチームとコミュニケーションを図りながら自分自身を成長させ、リーダーシップを発揮できる人間を目指す。</p> <p>【スリランカ】…スリランカ固有の薬草の研究活動を経て、唐津コスメティック構想の狙いである佐賀県地域を起点とした成長産業の創出に生かす。</p>






	<p>【フィリピン】…急成長市場である東南アジアのフィリピンで旅行業を学び、佐賀へのインバウンドの道を探ることを目的とし、現地での実践活動を行うことにより、現地法人の現状やフィリピンにおける旅行業を学ぶ。</p> <p>【カナダ】…佐賀県を舞台とした新しいアニメを用いてカナダ・トロントで行われるアニメ・コミックフェスティバルに出展することで佐賀県のPR活動並びに認知度向上を目指し、潜在的な観光客を呼び込む。</p>	
10月	寄附企業訪問	
12月	13日(火) 第1回地域コーディネーターミーティング	
2月	<p>帰国後～事後インターンシップ</p> <p>【株オプティム】…三者連携会議参加、新商品包装作成、留学成果報告</p> <p>【株ジャパン・コスメティックセンター】…地産農林水産物を化粧品等の原料へ仕向けていくための「地域資源活用チーム」の一員として現場へ同行し、企業や生産者を訪問して案件の構築、マッチングを進める。</p> <p>【株JTB 佐賀支店】…事前インターンシップの振り返り、イベント内の企画・作成、営業同行、佐賀県内の観光地視察に伴い佐賀県課題解決型の提案作り</p>	
	24日(月) 第2回地域コーディネーターミーティング	
3月	<p>2日(木) 平成28年度第5期派遣留学生成果報告会</p> <p>・参加者 さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長 宮崎 耕治</p> <p>文部科学省 官民協働海外留学創出プロジェクト地域人材コース担当 今井 了</p> <p>佐賀県地域交流部副部長 宮原 弘行</p> <p>佐賀県企業メセナ協議会代表世話人 村岡 安廣</p> <p>株式会社オプティム、株式会社JTB 佐賀支店</p> <p>佐賀県商工会連合会、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀女子短期大学</p> <p>西九州大学、佐賀銀行、株式会社ワイビーエム、徳永陶磁器株式会社</p> <p>株式会社 AQUAPASS 等</p> <p>第5期派遣留學生4名、留学予定の学生</p> <p>県内高校の生徒 数名</p>	 
	17日(金) 地域コーディネータープログラム研究会	
	23日(木) 知事表敬訪問	


(2) 平成 29 年度 (2017 年度) 概要

9 名の採用枠に対し 9 名が応募、8 名が第 7 期生採用となったが、その内 2 名の学生が留学先インターン企業からの受入が叶わず辞退となったため結果 6 名の採用となった。2 年目の今年度は前回採用があった佐賀大学のほか、西九州大学、佐賀女子短期大学の学生からも応募があった。

採用学生はそれぞれ国内事前インターンシップを行い、オランダ、ミャンマー・タイ、カナダ、イスラエル、フランス、オーストラリアへと飛び立ち、留学先で計画に基づき活動した。

	実施内容
4 月	17 日(月) 学生募集説明会 (佐賀大学)
5 月	10 日(水) 第 1 回地域コーディネーターミーティング ~15 日(月) 平成 29 年度派遣留学生選考書面審査 (一次審査) 24 日(水) 第 2 回地域コーディネーターミーティング 25 日(木) 平成 29 年度派遣留学生選考面接審査 (二次審査) 29 日(月) 第 3 回地域コーディネーターミーティング
6 月	16 日(金) 日本学生支援機構からの決定同意通知 (第 7 期 ; 8 名)
7 月	8 日(土) 佐賀県地域事前オリエンテーション ・参加者 佐賀県地域交流部国際課 野崎 知和 佐賀県産業労働部産業企画課 一丸 尋史 佐賀大学特任講師 小嶋 紀博 佐賀県地域コーディネーター 新美 達也 第 7 期派遣留学生 (当初採用者) 8 名 25 日(火) 平成 29 年度佐賀県地域派遣留学生壮行会 ・参加者 佐賀地域留学生等交流推進協議会会長・さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長 宮崎 耕治 文部科学省高等教育局学生・留学生課 留学生交流室長 齋藤 潔 佐賀県副知事 副島 良彦 佐賀県地域支援産業センター 佐賀県商工会議所連合会 (株)中山鉄工所、佐賀新聞社等 第 7 期派遣留学生 (当初採用者) 7 名 
	31 日(月) 日本代表プログラムの事前研修 (1 泊 2 日) 寄附企業訪問
8 月	11 日(金) 日本代表プログラムの事前研修 (1 泊 2 日) 事前インターンシップ 【(株)ワイビーエム】…ゲート構造の理解と強度計算書の作成 生製品の理解、物理探査・電気探査の原理の理解、電気探査による基礎データ収集 地中熱の原理の理解・データ解析・導入施設見学、GI コラム工法・Y-Link の理解・見 学、UFB (ウルトラファインバブル) の理解・見学、社内へのインターンシップ内容のプレ


	<p>ゼンテーション</p> <p>【社】ジャパンコスメティックセンター、(株)ブルーム】…海外化粧品情報（論文）検索 化粧品原料製造の支援、産学連携関係の資料作成支援、企業訪問</p> <p>【NPO 法人 地球市民の会】…ミャンマー事業・タイ事業・奨学金事業の補佐（イベント準備及び運営、資料作成等）、柳川高校のタイ人留学生のホームステイ事業補佐（留学生の管理、交流イベントの企画・運営）、小学生子どもキャンプ「ふるさとステイ」事業補佐</p> <p>【(株)オプティム】…自社プロダクトの検証作業、企業訪問 等</p> <p>【三光幼稚園】…幼児教育（モンテッソーリ教育）の時間の観察、幼稚園での活動、モンテッソーリ教育の教具の使い方や保育者の動きを知る。</p> <p>新規企業訪問</p>
9 月	<p>海外留学の開始</p> <p>【オランダ】…『都市計画』の中でも水環境について、水供給の強靭さや効率、水質において世界トップレベルの水準を誇るオランダにて研究・調査を行い、今後の佐賀の都市計画を考える。</p> <p>【フランス】…フランス・コスメティックバレーにて化粧品産業の現状と今後を学び、佐賀県及び唐津がより発展していくためには何が必要なのかを見つけ、「唐津コスメティック構想」の狙いである佐賀県地域を起点とした成長産業の創出に生かす。</p>  <p>【ミャンマー・タイ】…フェアトレードを地域の課題解決に対してビジネスの手法を用いて取り組むソーシャルビジネスのひとつとして考え、その仕組みを理解し、留学で学んだことを佐賀の地域課題解決への取り組みに生かせる人材を目指す。</p> <p>【カナダ】…移民を多く受け入れているカナダ・バンクーバーにて、現地住民の異文化理解と外国人在住者の多文化共生を調査し、佐賀県で地域住民と外国人在住者が共に暮らしやすい街づくりを目指し、地域活性化とグローバル化に繋げる。</p> <p>【オーストラリア】…佐賀県での『モンテッソーリ教育』について、30 年以上キャリアのある先生から実践を通して理念を学びながら新しい知識と経験を身に付け、一人でも多くの子どもの笑顔を引き出せる幼稚園教諭を目指す。</p>  <p>【イスラエル】…スタートアップ大国イスラエルからビジネスを世界展開する仕組みを学び、日本からそして佐賀から社会課題を解決するビジネス作りに生かす。</p> <p>16 日(土)～17 日(日) さが YEG 大産業交流展 2017（トビタテ！ブース出展）</p> <p>27 日(水) 第 4 回地域コーディネーターミーティング</p> <p>新規企業訪問</p>
10 月	<p>帰国後～事後インターンシップ</p> <p>【NPO 法人 地球市民の会】…留学成果報告、ミャンマー事業における商品の販路拡大事業、団体及び事業の情報を SNS で発信</p> <p>留学成果報告、佐賀在住タイ人ネットワーク「サワディー佐賀」と日中韓留学生交流事</p>


	業「TOMODACHI100 Project」の補助
	新規企業訪問
11月	8日(水) 第5回地域コーディネーターミーティング 23日(木) さがを創る大交流会(トビタテ!ブース出展)
12月	2日(土)~3日(日) 日本代表プログラムの事前研修(1泊2日) 13日(水) 第6回地域コーディネーターミーティング
1月	24日(水) 第7回地域コーディネーターミーティング
2月	16日(金) 地域人材コース(第9期)学生募集説明会
3月	19日(月) 平成29年度第7期派遣留学生成果報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長 宮崎 耕治 文部科学省トビタテ!留学 JAPAN シニアプロジェクトマネージャー 独立行政法人日本学生支援機構審議役 町田 大輔(代読) 佐賀県地域交流部部長 南里 隆 佐賀県商工会議所連合会会長 井田 出海 株式会社ワイビーエム、地球市民の会 佐賀県商工会連合会、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀大学、佐賀女子短期大学、佐賀市、鹿島市、松尾建設(株)、(株)佐賀電算センター等 第7期派遣留學生4名 <div style="text-align: center;">  </div>
	20日(火) 佐賀県副知事表敬訪問



(3) 平成 30 年度 (2018 年度) 概要

佐賀大学生 1 名、佐賀女子短期大学生 1 名の計 2 名が第 9 期生採用となり、それぞれ佐賀県内企業でのインターシップ終了後、留学先であるイギリス・ドイツへ出発した。なお、ドイツへの留学者は体調不良により早期帰国した。

	実施内容
4 月	6 日(金) 学生募集説明会 (佐賀大学) 16 日(月) 第 1 回地域コーディネーターミーティング 新規企業訪問
5 月	1 日(火)～10 日(木) 平成 30 年度派遣留学生選考書面審査 (一次審査) 14 日(月) 第 2 回地域コーディネーターミーティング 29 日(火) 平成 30 年度派遣留学生選考面接審査 (二次審査) 寄附企業訪問
6 月	15 日(金) 日本学生支援機構からの決定同意通知 (第 9 期 ; 2 名) 18 日(月) 第 3 回地域コーディネーターミーティング 新規企業訪問
7 月	25 日(水) 佐賀県地域事前オリエンテーション ・参加者 佐賀県産業労働部産業企画課係長 一丸 尋史 佐賀県地域交流部国際課主査 松枝 啓之 佐賀大学経済学部准教授 戸田順一郎 佐賀大学国際課 吉田 規雄 佐賀女子短期大学 泉コーディネーター 第 9 期派遣留学生 2 名  新規企業訪問 30 日(月)～8 月 10 日(金) 日本代表プログラムの事前研修 (1 泊 2 日)
8 月	6 日(月) 第 4 回地域コーディネーターミーティング 8 月～1 月 第 7 期生、第 9 期生 事後インターンシップ 【(株)ワイビーエム】…CAD による 2D 図面の 3D グラフィック化演習と実働チェック、地中熱・地盤改良工事の研究、TRT の研究と実習、ウルトラ・ファイン・バブルの勉強、地中熱を利用したシステムの見学 【(株)オプティム】…自社プロダクトの検証作業、企業訪問 等 【三光幼稚園】…幼児教育 (モンテッソーリ教育) の時間の観察、幼稚園での活動、モンテッソーリ教育の教具の使い方、保育者の動きを知る。 【(株)佐賀広告センター】…佐賀県の PR チラシの作成、佐賀広告センターの関わる事業への参加、イベントの設営、運営補助 29 日(水) 平成 30 年度佐賀県地域派遣留学生壮行会 ・参加者 独立行政法人日本学生支援機構審議役 竹内 新也 文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトチーム グローバル人材育成部 グローバル人材育成企画課長 斎藤 更紗


	<p>佐賀県副知事 副島 義彦、国際課長 鷺崎 和徳、主査 松枝 啓之 佐賀県商工会議所連合会会長 井田 出海、事務局長 八谷 浩司 徳永陶磁器(株)、(株)佐賀広告センター 佐賀県商工会連合会、佐賀県工業連合会、佐賀県ベンチャー交流ネットワーク事務局、(株)オプティム、(株)九電工佐賀支店、(株)サガテレビ、(株)ブルーム、松尾建設(株)、NPO 法人 地球市民の会 等 佐賀大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、九州龍谷短期大学 第9期派遣留学生2名 帰国留学生4名</p> <p>事前インターンシップ 【(株)徳永陶磁器】…陶磁器製造における全工程の制作およびサポート 【(株)佐賀広告センター】…広告物の作成、佐賀広告センターの関わる事業への参加 講演会の補助、イベント運営の補助、留学先で配布する佐賀県 PR 用のチラシの作成</p> <p>新規企業訪問</p>
9月	<p>海外留学の開始</p> <p>【ドイツ】…常に新しいデザインを模索しているドイツで、制作環境を変えることで自分に足りないものをみつけ、得た知識をもとに佐賀県の「やきもの」の発展につなげる。</p> <p>【イギリス】…日本に伝わる「民謡」を使って佐賀県の良さを広め、新たな地域からの観光客増につなげる。</p>  <p>15日(土)～16日(日) 日本代表プログラムの事後研修(1泊2日) 18日(火) 第5回地域コーディネーターミーティング 20日(木)・21日(金) 九州さが大産業交流展(トビタテ!ブース出展)</p> <p>新規企業訪問</p>
10月	<p>28日(日) さがを創る大交流会(トビタテ!ブース出展)</p> <p>新規企業訪問</p>
11月	<p>19日(月) 第6回地域コーディネーターミーティング 教員向けの事業説明会(佐賀大学)</p> <p>新規企業訪問</p>
12月	<p>15日～16日 日本代表プログラムの事後研修(1泊2日) 17日(月) 第7回地域コーディネーターミーティング</p>
1月	<p>14日(祝) 県内交流会でのPR(派遣学生による留学スピーチ) 21日(月) 第8回地域コーディネーターミーティング 24日(木) 説明・交流会(会場:佐賀大学)</p> <p>企業訪問</p>
2月	<p>14日(木) 地域人材コース第11期学生募集説明会</p> <p>企業訪問</p>
3月	<p>8日(金) 第9回地域コーディネーターミーティング</p>

(4) 令和元年度(2019年度)概要

佐賀大学生5名、筑紫女学園大学生1名の計6名が第11期生採用となった。派遣留学生壮行会では派遣留学生の決意表明のほか、第7期生・第9期生も壇上に立ち、企業の方々や参加学生へ留学の成果のほか、留学後の状況などを報告した。

本年度採用された学生は、それぞれ佐賀県内企業でのインターシップ終了後、留学先であるイギリス・フランス・ベルギー・フィンランド・オランダ・アメリカへ出発した。また、これから留学を希望する学生たちに向けて帰国学生による交流会・説明会を行った。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、成果報告会の開催と事後インターンシップの実施は見送ることとなった。また、第11期生の学生3名が留学中に新型コロナウイルス感染症による感染症危険レベルが2以上となったことに伴い帰国、留学を中断した。

	実施内容
4月	18日(木) 第1回地域コーディネーターミーティング 22日(月)～5月9日(木) 平成31年度派遣留学生選考書面審査(一次審査)
5月	27日(月) 第2回地域コーディネーターミーティング 22日(水) 平成31年度派遣留学生選考面接審査(二次審査) 24日(金) 広報・寄附活動(佐賀県産業人材育成プロジェクト協議会総会で資料配布、説明)
6月	11日(火) 日本学生支援機構からの決定同意通知(6名) 24日(月) 第3回地域コーディネーターミーティング
7月	13日(土)、16日(火) 佐賀県地域事前オリエンテーション ・参加者 佐賀県産業労働部産業企画課係長 一丸 尋史 佐賀県地域交流部国際課主査 松枝 啓之 佐賀大学経済学部准教授 戸田順一郎 佐賀大学国際課 吉田 規雄 保険会社講師 第11期派遣留学生6名  17日(水) 広報・寄附活動(さがを創る大交流会出展説明会で101社に資料配布および説明) 26日(金) 新規企業訪問(ソロン)(Citynow Asia) 29日(月)～8月6日(火) 日本代表プログラムの事前研修(1泊2日)
8月	7日(水) 第4回地域コーディネーターミーティング 20日(火) 令和元年度佐賀県地域帰国報告会・派遣留学壮行会 ・参加者 文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトチームグローバル人材育成部長 大西 啓介 文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトチーム グローバル人材育成企画課 北川 有紗 佐賀県副知事 小林万里子、国際課長 松村美由紀、主査 松枝 啓之 佐賀県商工会議所連合会会長 井田 出海、事務局長 八谷 浩司 (株) オプティム、特定非営利活動法人さが環境推進センター、シムアットデザインラボ、(株) 戸上電機製作所、(株) 香蘭社 認定NPO 法人地球市民の会、佐賀県工業連合会、公益財団法人佐賀県地域産業支援センター、(株) 佐賀広告センター、(株) 佐賀新聞社

	<p>(株) サガテレビ、(株) 佐賀電算センター、(株) 中野建設 (株) ブルーム、松尾建設(株)、(株) ミズ、(株) スチームシップ (株) ソロン、Citynow Asia(株) 等 第11期派遣留学生6名 第7期派遣留学生2名</p> <p>事前インターンシップ</p> <p>【(株) 戸上電機製作所】…技術部門での就業体験、工場見学 【(株) オプティム】…オプティムの事業理解及び企画発案、子供向けプログラミング教室のサポート、スマート農業体験 【NPO 法人 さが環境推進センター】…佐賀市から委託されている環境学習施設である「エコプラザ」での工場見学、毎月開催されるイベントの企画、運営 【シムアットデザインラボ】…町おこしに係るイベントサポート 【(株) 香蘭社】…香蘭社と有田焼について学ぶ、有田の町をフィールドワーク、工場見学 【NPO 法人 地球市民の会】…佐賀県在住外国人支援に関する情報収集、佐賀ツアー企画づくり、こどもたちのリベラルアーツに参加</p>
9月	<p>海外留学の開始</p> <p>【ベルギー】…佐賀県の陶磁器や有明海の手取海苔を用いてラマン光学活性分光について研究を行い、佐賀を拠点として研究してきたことを広める。</p> <p>【オランダ】…交換留学先やフィールドワークでデザインをアウトプットするまでのプロセス等を学び、佐賀におけるデザインやアートにつなげる。</p> <p>【イギリス・フランス】…世界的に有名な陶磁器ブランドがある現地で陶磁器が様々な用途で利用されることを目指して研究を行い、佐賀県の陶磁器産業の活性化につなげる。</p> <p>【アメリカ】…100以上の国と地域の人々が暮らすニューヨークで異文化理解のある社会づくりを学び佐賀のグローバル化に貢献する。</p> <p>【フィンランド】…世界トップレベルの教育を誇るフィンランドでICT技術がどのように活用されているかを学び佐賀県の教育に活かす。</p> <p>【フィンランド】…自然と子供を結ぶ、環境に優しい社会づくりについて学び、環境教育を佐賀県から日本に広める。</p> <p>20日(金) 企業訪問 (ジャパン・コスメティックセンター) 24日(火) 新規企業訪問 (シフトプラス)</p>
10月	<p>7日(月) 企業訪問 (宮島醤油) 9日(水) 新規企業訪問 (村岡総本舗) 11日(金) 新規企業訪問 (伊万里鉄工所) (大村屋) 18日(金) 佐賀商工会議所連合会会員宛て (590社) に寄附願い・事業説明資料配布 28日(月) 第5回地域コーディネーターミーティング</p>
11月	<p>4日(月) さがを創る大交流会 (トビタテ! ブース出展) 25日(月) 第6回地域コーディネーターミーティング 29日(金) 広報活動 (交換留学成果報告会でトビタテのちらし配布) 30日(土)～12月1日(日) 日本代表プログラムの事前研修 (1泊2日)</p>



12月	23日(月) 第7回地域コーディネーターミーティング
1月	13日(月) 広報・寄附活動(女性名刺交換会にてトビタテのちらし配布) 22日(水) 説明・交流会(トビタテ!のことを知りたいかい?(会)) 27日(月) 第8回地域コーディネーターミーティング 第7期生 事後インターンシップ 【(株)ブルーム】…海外化粧品情報(論文)検索。化粧品原料製造の支援、産学連携関係の資料作成支援、企業訪問
2月	28日(金) 第9回地域コーディネーターミーティング
3月	27日(金) 第10回地域コーディネーターミーティング

(5) 令和2年度(2020年度)概要

第13期の募集に3大学より4名の応募があったが、選考途中で新型コロナウイルス感染拡大のため文部科学省より第13期派遣中止の通知があった。そのため留学生の採用はできなかった。新型コロナウイルス感染症による感染症危険レベルが2以上となったことに伴い留学を中断した第11期生3名のうち2名が留学を中止した。第11期生3名が成果報告を行い、また、3名が国内事後インターンシップを行った。

	実施内容
4月	14日(火) 令和2年度派遣留学生募集 17日(金) 採用手続き中止 第11期生 事後インターンシップ 【NPO法人 さが環境推進センター】…佐賀市から委託されている環境学習施設「エコプラザ」での工場見学の補助、毎月開催されているイベントの企画・運営 【シムアットデザインラボ】…地域づくりイベントデザインプロデュース業務の補助、事務所(古民家)の改装作業 【NPO法人 地球市民の会】…佐賀県在住外国人支援に関する情報収集、資料、報告書の作成
11月	10日(火) 第11期生留学中止の届け出(1名)
12月	15日(火) 地域コーディネーターミーティング開催 21日(月)～23日(水) 佐賀大学交換留学成果報告会において成果発表(第11期生3名:オンライン) 24日(木) 第11期生留学中止の届け出(1名)

(6) 令和3年度(2021年度)概要

新型コロナウイルス感染拡大のため、本協議会としては学生の安全を最優先し、令和3年度第14期派遣留学生の募集を行わなかった。

留学先国の新型コロナウイルス感染拡大のため、留学を中断して帰国中であった第11期生1名が4月に他県大学院に進学した。その後、感染症危険レベルが下がらず、再渡航の機会が見込めないため、10月に留学の中止を決定し、文部科学省の冬季事後研修に参加した。

これまでの派遣学生全員から得られたアンケート結果や成果報告資料をもとに、平成28年度から令和3年度までの6年間の事業の成果を事業成果報告書にまとめた。また、佐賀県内の企業等に就職した3名の派遣留学生に、本事業に参加した成果を語ってもらう動画をホームページに掲載し、これまで寄附やインターンシップ受入れで支援していただいた企業や、留学を志す学生に向けて報告した。また、各支援企業には事業成果報告書を提出し、これまでの支援に謝意を表した。

	実施内容
10月	07日(木) 第5期～第11期留学派遣学生登録内容の確認、連絡先の確認 28日(木) 第11期生属性変更の文科省届け出(1名) 28日(木) 第11期生留学中止の文科省届け出(1名)
11月	第11期派遣学生成果報告資料作成
12月	10日(金) 第5期～第11期留学派遣学生アンケート実施 11日(土)～12日(日) 日本代表プログラム冬季事後研修(オンライン)(第11期生) 14日(火) 佐賀県地域コーディネーターミーティング開催
1月	07日(金) 派遣学生の成果報告動画撮影(第11期生1名) 12日(水) 派遣学生の成果報告動画撮影(第9期生1名、第11期生1名)
2月	事業成果報告書の作成
3月	派遣学生成果報告動画のホームページ公開 事業成果報告書の発行

(7) 収支概要

【収入】

拠出元	入金額(円)	決算額(円)
地域企業寄附	7,359,460	7,359,460
佐賀県	7,412,078	4,180,914
佐賀大学他	8,842,472	7,123,071
日本学生支援機構交付金	21,132,598	10,311,407
合計	44,746,608	28,974,852

*佐賀県、佐賀大学、日本学生支援機構交付金については経費支出額に応じて返納が発生した。
決算額は、入金額から返納額を差し引いたもの。

【支出】

経費内容	金額(円)
奨学金	9,360,000
事前事後研修参加費	1,254,000
往復渡航費	3,200,000
授業料	2,447,934
運営経費 人件費・旅費・印刷製本費 業務委託費・会議費 他	12,712,918
合計	28,974,852

IV. 成果と課題

本事業の成果を検証するため、本事業に参加した派遣留学生にアンケートを実施した。派遣留学生のデータやアンケートの結果から見えてくるものに基づいて、本事業の成果を考察する。

○留学生の募集について

《地域人材コース応募者数および採用学生数》

大学等 募集期		佐賀大学	西九州大学	佐賀女子 短期大学	九州龍谷 短期大学	久留米大学	筑紫女学園 大学	計
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
平成28年度 第5期	応募者数	7	0	0	0	0	0	7
	採用学生数	4	0	0	0	0	0	4
平成29年度 第7期	応募者数	7	1	1	0	0	0	9
	採用学生数	4	1	1	0	0	0	6
平成30年度 第9期	応募者数	1	0	1	0	0	0	2
	採用学生数	1	0	1	0	0	0	2
令和元年度 第11期	応募者数	9	0	0	0	1	1	11
	採用学生数	5	0	0	0	0	1	6
計	応募者数	24	1	2	0	1	1	29
	採用学生数	14	1	2	0	0	1	18

【考察】

初年度は6名の枠に7名が応募し、第5期生4名を採用した。そのうち1名は事前・事後インターンシップ先に就職を決めることができた。応募学生が佐賀大学生のみとなり、協議会から他大学への周知が十分に出来ていなかったかと思われる。2年目は9名の応募があり、第7期生6名を採用することになった。採用学生のうち2名が佐賀県内での就職を決めることができた。また、事務局である佐賀大学のほか、西九州大学、佐賀女子短期大学からの応募があり採用された。トビタテ！留学地域人材コースについて他大学への周知ができた結果だといえる。3年目の派遣留学生数は目標には及ばなかったが、第9期採用学生の2名は卒業後は県内就職を強く希望していた。4年目は9名の枠に11名が応募し、第11期生6名を採用することになった。そのうち3名が佐賀県内での就職を決めた。久留米大学、筑紫女学園大学の学生の応募もあり、応募人数は過去最多となった。令和2年度当初は宮崎公立大学の学生からの応募の予定もあり、年々応募学生の枠が広がっていったことが窺える。本協議会が、学生に向けた本事業の説明会の開催、パンフレットの配布、ホームページでの広報などをはじめ、地域の大きなイベントに本事業にブースを出展したり、メディアに成果報告会や知事表敬の様子を取り上げられたりして、地道に留学に関心のある学生に喚起してきた成果だと考える。令和2年度および令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、残念ながら留学派遣は中止となった。

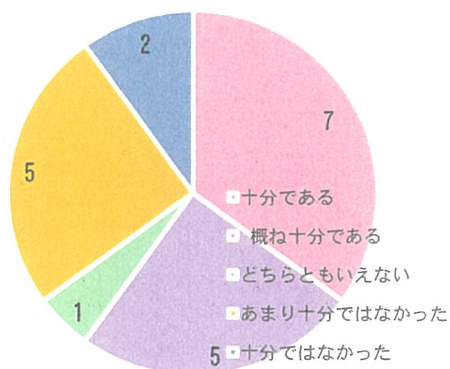
○留学先や留学の期間について

≪留学先地域と期間≫

地域名	期 間						計 (人)
	1 か月未満 (人)	1 か月以上 3 か月未満 (人)	3 か月以上 6 か月未満 (人)	6 か月以上 1 年未満 (人)	1 年以上 (人)		
アジア		3	1			4	
中 東			1			1	
アフリカ						0	
大洋州				1		1	
北 米			3			3	
中南米						0	
ヨーロッパ	1	4	4			9	
その他						0	
計	1	7	9	1	0	18	

≪アンケート結果（1）≫（グラフ中数値単位：人）

（1）渡航期間の満足度



【不十分の理由】

- ・研究スケジュールの都合上短期間となったが、留学期間のほとんどを研究所で過ごしたため、地域の人・文化に触れる機会が少なかった。
- ・中途半端だった。
- ・最低限の資料収集や経験は得られたが、それ以上の経験セレンディピティを感じられる時間がなかった。
- ・当初は6ヵ月の予定だったがコロナ禍による緊急帰国となった。
- ・新型コロナ感染拡大に伴い帰国。大きなイベントを残していたのもう少し留学を続けたかった。
- ・コロナ禍で緊急帰国した。学校の設備も一切使えずどこにも行けていない不満がある。
- ・研究を行う上で半年間という期間は非常に短く、想定していた成果を出すためには1年以上の期間が必要だと感じた。

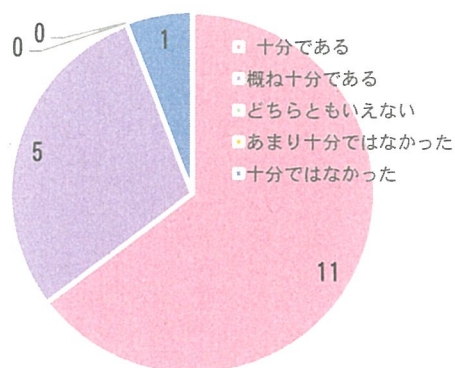
【考 察】

留学先や留学の期間については、学生が自ら掲げた留学テーマに基づいて自分で計画を立てている。大半の学生が留学期間については満足しているが、一部の学生は、やや期間が足りなかったと感じている。留学先での研究や活動の内容によっては、事前に留学期間を適切に想定し満足できる設定をすることは困難だと思われるので、留学経験者の助言などを得ながら、はじめからやや余裕ある計画を立てるとよかったのではないかと考えられた。また、新型コロナウイルス感染拡大のために留学を中断せざるを得なかった第11期生の3名においては、本人にとっては不完全燃焼のままという感をぬぐえないことは察するに余りあるが、不測の事態からも学びを得てキャリア設計を再構築することができた。

○留学費用について

《アンケート結果（2），（3）》（グラフ中数値単位：人）

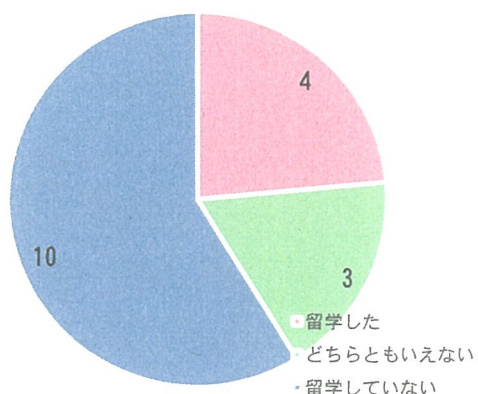
（2）奨学金として支援された金額の満足度



【不十分の理由】

・語学学校の授業費や渡航費の支援は非常に助かった。しかし、ニューヨークへの留学で、物価が非常に高く経済的に大変だった。平均的な家賃の半額程度の物件に住んでいたが、それでも毎月の支給額では家賃すら賄えない状況だった。他地域へ留学した一部のトビタテ留学生からは支給額で余るという声も聞かれた。本事業の奨学金の支給額が扶養者の収入によって違ってくるが、留学先の物価に応じて支給額が公平となるようにしてもらえると助かるトビタテ生もあると思う。

（3）本事業による奨学金がなくても留学したか



【奨学金がなくても留学した】

・現地で研究活動をする必要があった。その学校で学びたいことがあった。
・もともと留学予定があった。

【どちらともいえない】

・奨学金がなくても挑戦していた。しかし資金を蓄えるために2年ほど準備にかかったことと思う。
・検討したとは思いますが現地の物価が非常に高いので実現は厳しかった。
・奨学金がなければ相当額の身銭を切らなければならなかったかもしれない。

【奨学金がなければ留学していない】

・金銭的負担が大きく4カ月という長い期間の留学はできなかった。
・資金面で、渡航費や奨学金の支援がなければ金銭的に留学は困難だった。

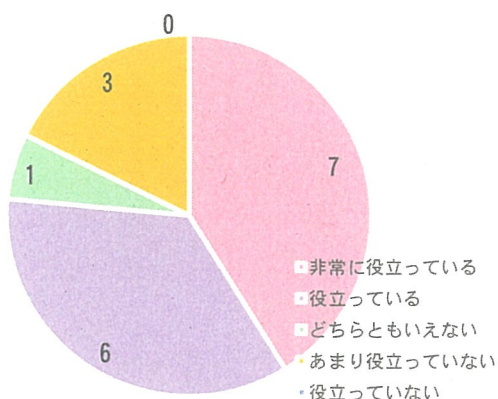
【考察】

留学費用については、物価の高いニューヨークに留学した学生以外のほぼ全員が十分、概ね十分であったと答えた。現地の物価状況に応じて奨学金支給額を変動させることについては検討の余地があるが、渡航費や研修費、そして毎月の奨学金等を全て支給され返還不要ということは、学生にとって大きなメリットであった。本事業の奨学金支給が無ければ留学は実現できなかったという学生も多く、県内企業の寄附のおかげで、大きな夢を持ち将来を担っていく学生を海外に飛び立たせることができた。県内企業からの支援額として初年度は150万円を目標とし、26企業・団体から181万円の寄附を得た。佐賀県地域活性化のためのグローバル人材育成プログラムを理解してもらえた結果である。県内企業の中にはグローバル展開をしている企業が多数あり、地域活性化に向けたグローバル人材が必要だと感じている企業が多いことが窺える。その後、辞退する企業もいくらかあったが、令和元年度には41企業・団体からの申し出があり、寄附金の合計は240万円となり過去で最も多い寄附金が寄せられた。6年間の寄附支援企業・団体の総数は53企業・団体にのぼり、寄附金総額は736万円となった。協議会では派遣留学生の選考過程に企業を加えたり、壮行会、成果報告会のほか各種イベントへの企業の参加を促したりして支援企業の理解を図ってきた。また、地方創生推進事業（COC+）が開催した145の企業やNPO等が集まるイベントにも「トビタテ！留学 JAPAN 佐賀県地域人材コース」としてブースを出展して、多くの企業に事業の周知を行ったり、新たな取組による寄附活動を行ったりした。このように協賛企業が増え、安定した額の寄附を集められたのは、協議会が、学生と企業が接触する機会を増やし関係を深めるとともに、継続して粘り強く本事業の意義について理解を得、企業・団体の賛同を得ることに力をいれてきた結果だと言える。〔P2～3 寄附協力企業・団体一覧表参照〕

○事前・事後インターンシップについて

《アンケート結果（4）》（グラフ中数値単位：人）

（4）インターンシップは自分のスキルアップに役立っているか



【非常に役立っている、役立っている】

- ・地域の環境問題への取組を知り、自分の留学計画に興味が高まった。
- ・地域にどのように関わっていききたいか明確になった。
- ・社会に出て企業人としてどのような姿勢で社会に貢献していけばよいか、非常に刺激となった。
- ・地方が抱える課題を学ぶことができ自分の将来成し遂げたい目標に繋がった。
- ・技術的なことを学ぶことができた。事業に関わりスキルアップを実感できた。
- ・人脈ができた。人との繋がりを強く感じた。
- ・インターンが留学の学びに直結し、留学の深堀りにもなった。佐賀県の国際化の現状を目の当たりにし、様々な事業に関わらせていただき、自分も地元佐賀県で活躍したいと思うようになった。
- ・業界分析において幅広い視点を得ることができた。

【どちらともいえない】

- ・いろいろ経験できるが何しろ負担が大きかった。

【あまり役立っていない】

- ・社会人としての経験にはなったがスキルアップには繋がらなかった。
- ・自らインターンシップ企業を選べなかったため。

【考察】

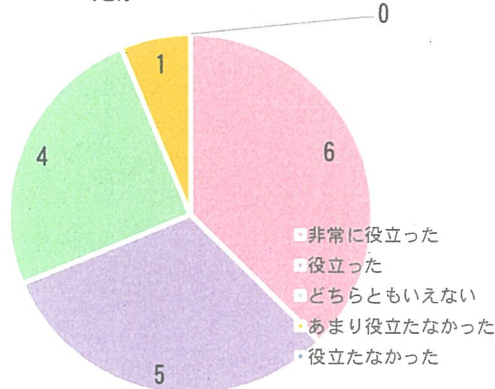
本事業では、佐賀県地域の活性化を目指す独自のプログラムを設けて学生を派遣する中で、寄附企業だけでなく、学生の事前事後インターンシップを受入れていただけた企業の開拓にも努めた。壮行会及び成果報告会では、受入れ先企業から事例報告をしてもらうことで、企業から見た本事業への参画のメリットをアピールする機会とした。佐賀県地域活性化のためのグローバル人材育成プログラムを理解してもらえた結果、インターンシップ受入企業・団体を少しずつ新規開拓することができた。事前事後インターンシップでは、自分の興味関心のある企業が受け入れてくれることにより、県内定住等を考えている学生にとっては留学の目標も高めることができ、より一層地域への興味関心が深くなったようである。また、業務が実際にどのように企画・開発され、機能するのかを学ぶことができ、企業・団体の一員としてのスキルアップにつながっているようだ。

[P4 インターンシップ受入れ登録企業・団体一覧表参照]

○留学経験が就職活動及び現在の職業に活かされているか

《アンケート結果(5), (6)》(グラフ中数値単位:人)

(5) 留学が就職活動に役立ったか



【非常に役立った、役立った】

- ・留学先、期間、目的を自分で計画し、課題を乗り越えて行動したバイタリティを面接でアピールできた。
- ・粘り強く挑戦する能力や予期せぬトラブルに対応できる柔軟性、対人折衝能力がアピールポイントになり高い評価をいただいた。
- ・留学で業界や会社のことを身をもって深く知ることができ、就職活動で言葉に説得力を持たせることができた。
- ・国際感覚、コミュニケーション能力をアピールできた。
- ・留学を経験して自分の希望する進路が明確になり、将来を見据えて努力できた。
- ・自ら考え行動した留学を通じて、固定概念に囚われず自分のやりたいことという軸に絞って就活できた。

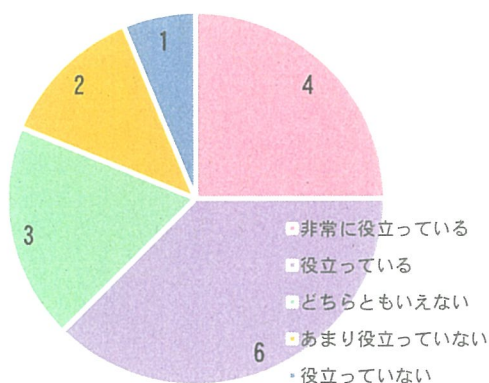
【どちらともいえない】

- ・留学で何を学び、それを仕事にどう生かしていくかを自分の言葉で説明できないと就職に結びつかない。最後まであきらめずやり抜く力はアピールできた。
- ・あまり必要とされないスキルだと感じた。

【あまり役立たなかった】

- ・就職のために留学したわけではないので。

(6) 留学が現在の職業に役立っているか



【非常に役立っている、役立っている】

- ・留学で身に着けたPDCAサイクルは現在の仕事での土台になっている。
- ・多様な視点から物事を見ることができるようになった。
- ・異文化理解、コミュニケーション能力は仕事での関係構築に役立っていると感じる。自ら発信する力は今の職場に生かされている。
- ・海外の情報を扱う際に、国ごとの文化や生活を理解し広い視野で仕事ができている。
- ・自分で主体的に業務に取り組むことは留学で培われたものだと考える。
- ・教員をしているが、海外の体験話を子どもがとても興味をもって聞いてくれる。社会科授業では環境問題を深く扱うことができた。
- ・留学先学校と現在も繋がっている。
- ・留学を通じて佐賀が持つ良さに改めて気づくことができた。その良さを広げるために今の会社に就職した。

【どちらともいえない】

- ・留学で学んだ内容が現在の仕事に直結はしないが、視野を広く持ち様々な角度から物事を見るようになったことは、現在の技術営業職に大いに役立っている。

【あまり役立っていない、役立っていない】

- ・業種上あまり役立っていない。留学しなくても就ける仕事で語学力も必要とされない。

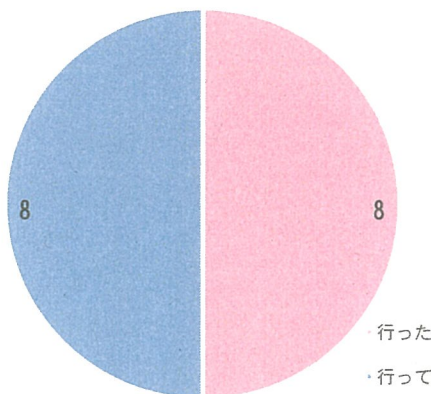
【考察】

就職活動に際して、大半の学生が留学が役に立ったと考えている。留学によって自分のやりたいことが明らかとなり、就職希望企業の選択基準がはっきりしたことや、採用に向けて希望企業に対して留学経験によって習得した自分の強みをアピールできたことが主な理由である。学生が、それぞれの条件を伴う中で実際に就職した先の業務内容等によっては、留学したことが直接的に役に立っているとは思えないと回答している学生もいるが、大半の学生が、業務には直結しなくても、広い視野、多様性を受け入れる力、主体的な行動力など、留学で得られた能力が現在の職業に役に立っていると回答した。これらのことから、本事業における留学が学生の就業に与えるプラスの影響の大きさを窺い知ることができる。

○佐賀県内企業への就職について

《アンケート結果（7）、（8）》（グラフ中数値単位：人）

（7）佐賀県内企業の会社説明会に行ったか



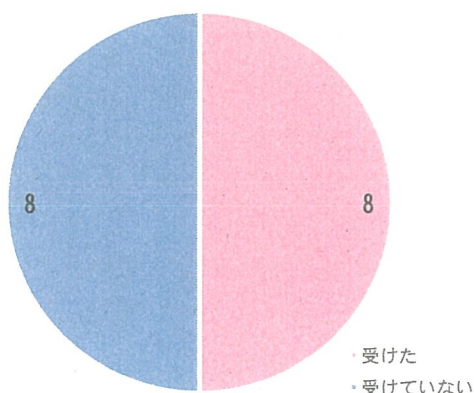
【行った理由】

- ・自分の留学テーマとの関連で、佐賀県のような企業に興味があり、合同説明会や個別説明会に多数参加した。
- ・佐賀の企業への就職を希望していた。
- ・関心のある企業の詳細を知るため。佐賀の企業がどんな活躍をしているか知見を広げるため。

【行ってない理由】

- ・家庭の事情で佐賀県外に就職する必要があった。
- ・希望職種の企業が佐賀県内では見つけられなかった。
- ・やりたい仕事が決まっていた。
- ・時期的に参加できなかった。
- ・開催を知らなかった。

（8）佐賀県内企業の採用試験を受けたか



【受けた理由】

- ・佐賀の企業への就職を希望していた。
- ・自分の専門的な知識で佐賀の企業に貢献できればと思い挑んだ。
- ・地域活動に力を入れてきたし、人脈も多い佐賀県を舞台に活躍したいという思いが強かった。
- ・県内企業と自分が希望する職種が合った。
- ・紹介をいただいた。

【受けてない理由】

- ・希望職種の企業、自分のビジョンにマッチする企業に出会えなかった。
- ・家庭の事情で佐賀県外に就職する必要があった。
- ・企業数が少なかった。
- ・外から佐賀県に足りないものを考えたかった。
- ・ゆくゆくは佐賀での就業を考えているがファーストキャリアは県外を希望していたため。

【考察】

派遣留学生のうち1名はインターシップ先企業に就職することができた。また、卒業後、佐賀県に就職先を選んだのは16名中6名であった。うち1名は他県の出身者である。本事業の目的としてグローバル人材育成及び県内定住をあげ、地域企業の協力を得ることにより佐賀県地域の活性化を目指すものであるが、実際に就職するにあたっては、それぞれの学生が家庭事情や職種の希望等もあり、佐賀で就職しない、或いはできない学生も多かった。これはやむを得ないことであり、必ずしも学生に佐賀定着を促すものではない。学生と県内企業とのマッチングの機会を増やしたり、広報手段を広げたりするなど説明会の持ち方をさらに検討する余地はあるかもしれない。

○個人のグローバル人材としての成長について

《アンケート結果》（表中数値単位：人）

『トビタテ！留学 JAPAN ～地域人材コース～』によって伸びた能力 アンケート （回答者 17名）

	評価項目	かなり そう 思う	やや そう 思う	どちら とも 言え ない	そう は思 わな い
主 体 性	1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができるようになった	11	6	0	0
	2. 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができるようになった	7	10	0	0
	3. 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを提案できるようになった	7	8	2	0
	4. リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行することができるようになった	15	2	0	0
協 働 性	5. 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できるようになった	10	7	0	0
	6. その場のルールや手続きに従って、自ら適切に行動したり発言したりすることができるようになった	9	8	0	0
	7. 自分と文化背景の異なる場所また仲間とでも、積極的に行動することができるようになった	13	4	0	0
異 文 化 理 解	8. 自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受け入れることができるようになった	13	4	0	0
教 養	9. 語学力向上への興味・関心が増した	14	2	1	0
	10. 政治・社会問題・国際関係について、興味・関心が増した	12	5	0	0

【考察】

このアンケートでは、派遣留学生在が自分の主体性(評価項目1～4)、協働性(評価項目5～7)、異文化理解力(評価項目8)、教養(評価項目9～10)について、本事業の留学経験によるところの能力の伸びについて振り返った。アンケートの結果として、総じて様々な能力に関する評価項目に対して肯定的な回答が得られた。すべての学生が、グローバル人材に欠かせないこれらの能力の高まりを自覚していることから、留学によって能力伸長の効果があったと考えることができる。能力の伸びに留学期間や渡航先による影響はさほど無く、留学を経験すること自体が学生の成長につながったと思われる。

中でも学生が伸びを感じていたのは「4. リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行することができるようになった」であった。自分の専攻分野に基づいて自分で留学計画を立て、文化の異なる地で全て英語や現地の言葉でコミュニケーションを取りながら、外国人と一緒に研究やインターンシップなどの活動をこなしてきた彼らは、きっと多くの困難を経験し、たくさんの努力が必要であったことだろう。リスクがあっても挑戦し実行できるようになったと自身の成長を認めているアンケート結果からは、困難を乗り越えてチャレンジしていけるという彼らの自信が感じられる。

また、アンケートにおけるコメントからは、佐賀県企業・団体での事前事後インターンシップの機会を得て、現場の企業理念に触れ、業務の一部を遂行することによって、自らの将来に対するビジョンが明確になり、人一倍成長することが出来たことも窺えた。多様性を受け入れる感覚を身に付け、広い視野をもって自ら主体的に行動できる彼らは、グローバル人材として佐賀の地域創生を担う存在である。他地域に就職した学生も各々の進んだ分野で能力を発揮し活躍することを確信する。

本事業は、地域及び産業界が求めるグローバル人材の育成と県内定住を目的として佐賀県地域の活性化を目指すものである。次頁に付記した派遣留学生のコメントにあるように、佐賀県に就職した学生はもとより、他県に就職した学生たちも、何らかの形で今後も佐賀にかかわりながら自分の職務を全うしたいという気持ちを持ってきている。本事業の成果として、今後の佐賀地域活性化を担っていくグローバルな人材育成を行うことができたと考える。

付記：以下、アンケートでの派遣留学生の自由記述を示す

《今後、佐賀にどうかかわっていきたいと考えているか》

- ・トビタテの佐賀大学メンバーの中には、実際に地域活性化を目指した会社を設立している人もいる。大学時代の友人や、トビタテ佐賀大学メンバーと佐賀の地域活性化について話したり、一緒に関わっていったりできたらと考えている。（県外在住）
- ・将来的には、学生時代に学んだこと＋社会人になって経験したことを生かして、佐賀のために何かやっていきたいと考えている。（県外在住）
- ・副業の個人事業で実施しているアウトドアやサウナ事業の領域において、去年は武雄市と協業させていただき、テレビロケの誘致なども実施した。佐賀県に対する想いは今も持っている。（県外在住）
- ・日本文化を発信する活動を始めたので、愛着のある佐賀を題材にしたい。（県外在住）
- ・地域の発展に役立てることがあれば協力したい。（佐賀県在住）
- ・現在、人材系（中途採用領域）におけるサービスの企画を佐賀県内の企業とともに進めている。（県外在住）
- ・出会う人たちに佐賀県の魅力を伝えている。（県外在住）
- ・現在、仕事で教育に関わらせてもらっている。生徒たちには将来、佐賀と海外との関係構築を担ってもらいたいので、今の仕事で生徒たちのコミュニケーション力や相互理解の手助けを行いたい。（佐賀県在住）
- ・佐賀県は教育に対してとても熱心に動いているように感じている。私も今できることをコツコツと積み重ね、いつかその一部となって貢献したい。（県外在住）
- ・佐賀県内の企業に就職している。引き続き佐賀で仕事を続けようと考えている。（佐賀県在住）
- ・学校の教育プロジェクトを佐賀から行っていきたいと考えている。新しい教育のアップデートを佐賀から発信していきたい。（県外在住）
- ・教員として、子どもたちに気候変動や身の回りの自然に関心をもってもらえるような授業や学級を作っていく。また、今後は、環境活動家を招いた講演会などのイベントを企画し、地域の人たちに気候変動や自然環境とのかかわり方について考えてもらえるような機会を作りたいと思っている。（佐賀県在住）
- ・場づくりや関係人口の創出など。（県外在住）
- ・佐賀県内企業採用は残念ながら叶わなかったが、九州内で働けているので、佐賀県をアピールする宣伝や良さを伝える口コミで貢献している。（県外在住）
- ・広告についてさらに勉強し、佐賀の良さを発信出来たらいいなと思っている。（佐賀県在住）
- ・共生社会を地域社会で実現することに向けて活動することで地方創生につなげたいという強い思いがある。ひとり一人が尊重され自己肯定感を持って生き生きと活躍できる地域社会を目指し、地域活動に積極的に参加し、仕事にも自分の経験を生かしていきたい。生涯にわたってこの活動ができるように、知識を増やし多様な方々との関係性を気づいていくことで、地域を巻き込んだ持続的に発展できる地域社会の創造に寄与していけるよう努力していきたい。（佐賀県在住）

V. 派遣留学生の成果報告

自らの目的に向かって主体的に、且つ逞しく活動に取り組みながら課題を解決していく過程を通してグローバル人材として成長した留学生が、本事業に参加して得ることのできた成果を記した成果報告を次頁以降に掲載する。

- ・平成 28 年度 (2016 年度) 第 5 期生 P 30 ~ P 37
- ・平成 29 年度 (2017 年度) 第 7 期生 P 38 ~ P 49
- ・平成 30 年度 (2018 年度) 第 9 期生 P 50 ~ P 51
- ・令和元年度 (2019 年度) 第 11 期生 P 52 ~ P 63

編集後記

6年間の本事業を終えるにあたり報告書に成果をまとめました。派遣留学生たちが後輩たちに向けて口をそろえて言うのが「一步踏み出せ」「行動せよ」「挑戦せよ」などの言葉です。留学の夢を実現させ、様々な困難を乗り越えて自分で何とかしてきた自信に裏打ちされた言葉だと受け止めます。佐賀県への熱い思いをもちながら、想像力をもって主体的に行動することのできるグローバル人材である派遣留学生たちを、佐賀県の将来の担い手として頼もしく思うとともに、今後の活躍を心から願います。

最後に、これまでインターンシップ受入れや多額の寄附で学生たちをご支援いただいた地域企業・団体の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。皆様のお力添えなくして学生を海外に送り出し充実した学びの機会を提供することはできませんでした。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

SAGAN グローバル人材育成協議会

SAGAN グローバル人材育成協議会

○代表 国立大学法人佐賀大学長 兒玉 浩明

○構成機関

[産] 佐賀県商工会議所連合会（佐賀市白山 2-2-12）

担当：佐賀商工会議所総務課 永原 新

[官] 佐賀県（佐賀市城内一丁目 1 番 59 号）

担当：地域交流部国際課 宮尾 みづき

[学] 学校法人佐賀龍谷学園 九州龍谷短期大学（鳥栖市村田町岩井手 1350）

担当：国際交流センター 内野 安成

コーディネーター 鳥飼 智弘

学校法人旭学園 佐賀女子短期大学（佐賀市本庄町本庄 1313）

担当：グローバル教育センター 学生支援グループ

コーディネーター 川崎 亜弥

学校法人永原学園 西九州大学・西九州大学短期大学部（佐賀市神園 3-18-15）

担当：国際交流センター

コーディネーター 徳永 竜也

国立大学法人 佐賀大学（佐賀市本庄町 1 番地）

担当：国際交流推進センター 学術研究協力部国際課

コーディネーター 吉川 達

事務局 佐賀大学学術研究協力部国際課
枝國 武司
矢田 裕美
黒田 茂代子

世界とともに発展する SAGAN グローバル人材育成事業

文部科学省官民協働海外留学支援制度「ビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」
～「地域人材コース」～

成 果 報 告 書

令和4年（2022年）3月発行

◆ 編集・発行
SAGAN グローバル人材育成協議会運営事務局
〒840-8502
佐賀市本庄町1番地
佐賀大学学術研究協力部国際課

◆ 印刷 株式会社 昭 和 堂